

8月21日(水) “滋賀県総合教育センター、滋賀県心の教育相談センター” を訪問しました!

訪問テーマ 自律的に学び続ける教職員を支援する研修・研究

訪問した委員 土井 真一 委員 岡崎 正彦 委員 窪田 知子 委員 野村 早苗 委員

滋賀県総合教育センター・滋賀県心の教育相談センターについて

滋賀県総合教育センターでは、喫緊の教育課題や学校現場のニーズに応じた研修事業や学校等支援事業を展開し、教職員の実践的指導力や専門性の向上を支援しています。また、先進的・先導的な研究事業を推進し、研究成果の普及に努めています。学習面や生活面で困難な状況にある幼児・児童・生徒の特別支援教育に関する相談を受け、専門の相談員が具体的な支援方法等を一緒に考える相談事業も行っています。

平成30年4月には、滋賀県心の教育相談センターが同施設内に移転し、児童・生徒の不登校に関する相談を受け、集団への適応に関する支援を行うなど、学校復帰を目指す取組を行っています。

訪問の様子

○施設や研修の様子を視察しました。

総合教育センター



情報演習室



研修(子どもの読書活動推進)の様子

心の教育相談センター



相談室

○ミドルリーダー研修を受講している教員と教育委員が対談を行いました。

※ミドルリーダー研修：学校組織の中核となる小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員および養護教員を対象とし、教育活動の推進役として自覚をもつとともに、学校改善に向けた実践力の向上や校内外におけるリーダーシップの向上を目指すことを目的とした研修。

「学校組織マネジメント」をテーマにした研修が行われており、受講した教員は、自校の内部環境と外部環境の「いいところ」、「惜しいところ」を分析し(SWOT分析)、学校運営における具体策を検討する過程を学んでいました。

研修の後半では、校種ごとに3~4人のグループになり、それぞれが自校の様子を発表し、それを聞いた他の先生たちが、感想や意見を述べていました。教育委員もグループの中に参加し、教員と意見を交わしました。

参加していた教員からは、「地域との関わりについて、協力的でとても助かる半面、一部の教職員の負担が大きい。」や「増加している若手教員がベテラン教員からアドバイスをもらうことはとても貴重であるが、なかなか勤務時間内にそうした時間を生み出すことが難しい。」「全て子どもたちのための取組ではあるが、思い切って業務を精選していかないと、働き方改革は進まないと思う。」などの意見が出されました。



○センター所員との意見交換から

委員：たくさんの研修や研究を行っているが、手応えは感じているか。

所長：研修終了後のアンケートでは、大変感銘を受けて帰られる先生はいる。それを学校に持ち帰り実践に結びつけることが課題である。できるだけ現場に出向く研修を行い、学校と共に研究していくことを充実させたい。

委員：学校全体で抱えている課題は、一人で変えていけるものではないので、学校の職員全員が受けられるサテライト研修など、センター所員訪問型の研修は大事である。ぜひ続けてもらいたい。

委員：訪問型の研修では、何か気を付けていることはあるか。

所長：例えば、プログラミングの研修は、19市町全てに行く予定である。地域や学校のバランスは意識している。



委員：ミドルリーダーの先生方との対談から、学校や地域によって特徴や課題が異なることがよく分かった。

委員：ミドルリーダーの先生方のグループ討議は、他の先生の意見や他の学校の状況も聞けて、自分の考えを深められる大変良い取組だと思う。また我々委員も、先生方の思いが聞けて参考になった。できれば、そこで出てきた意見を、ぜひ教育委員会に伝えていただくとありがたい。

教育委員から

<土井委員>

センターにおいて、先生方の経験年数や関心に合わせて、充実した研修プログラムを毎年提供していただいていることに感謝を申し上げます。近時は、各先生方の資質・能力を高めるだけでなく、学校として教育改善等に取り組むことにつながる研修の在り方も御検討いただいていると伺いました。非常に大切な試みであり、教育委員会として支援していく必要性を感じました。さらに、ミドルリーダーの先生方からは、教育現場の第一線で感じておられる思いや課題を率直に伺うことができました。そうした声を受け止めて、本県の教育施策を考えていきたいと思っております。

<岡崎委員>

研修のグループワークに参加して、学校規模や地域での環境の違いが先生方の学校運営に差を生み出していることを改めて感じました。PTA活動でも同じことをよく感じていたので、教師と保護者が一緒になって進めて行くことの重要性を再認識できました。また、センターで取り組まれているサテライト研修について、現場に足を運び学校全体や市町での集合研修を実施することは、多忙な先生方にも研修が実施でき良いことと感じました。しかし、センターに依頼が来る時期は集中してしまうことも多いようで、ここでも教育のための人手不足が課題となっており、県としての対策が必要と感じました。

<窪田委員>

施設内の見学や研修場面の参観を通して、県内の子どもたちに質の高い教育を保障するために先生方の指導力・教育力を高めるべく、研究や研修、リソース等を充実させていることを実感しました。それに応えるように、熱心にグループで議論する先生方の研修での姿も印象的でした。“個”としての教員一人ひとりの学びが、学校という“集団”に生かされ、地域全体の教育の質の向上につながるような県全体としてのバックアップ体制、働き方を含めた環境の整備が求められていると感じました。

<野村委員>

身近に先生方の学校現場の声をお聞きし、個々に抱えておられる課題は様々でしたが、自身を高めるための研修を受けながら日々努力されていることを知ることができました。現場での子どもたち、保護者の方々、取り巻く地域、そして学校というひとつの職場空間の中で、ミドルリーダーの先生方の役割は一人の先生が担うにはとても大きなものがあるように思います。どの職場においても、中間層の年齢は広い範囲での業務を余儀なくされますが、諸課題に対し教育センターの取組を活用していただき、課題解決へとつなげ子どもたちの学ぶ力を高めていただきたいと切に望みます。